

予防接種のお知らせ

ロタ・小児用肺炎球菌

接種場所	別紙「個別予防接種医療機関(南部地区)」 または本島内の医師会加盟医療機関（直接、医療機関へ問合せ） ※県外や県内離島での接種には糸満市からの依頼書が必要です。 詳細は糸満市ホームページをご覧くださいか、お電話にてお問い合わせ下さい。	
料 金	無料	対象年齢を過ぎると全額自己負担 【小児用肺炎球菌:約13,000円×4回 ロタ:約16,000円×2回】
持ち物	親子健康手帳、予診票、住所が分かるもの(こども医療費受給資格者証、マイナカード等)	

小児用肺炎球菌		
標準的なワクチン 接種スケジュール	【接種を始める月齢】 生後2ヶ月から7ヶ月の前日まで	
	■接種の間隔	
	初回【1回目・2回目・3回目】 前回から 4週間以上あける	追加1回目（4回目） 3回目から 60日あけて、かつ1歳以上
回 数	4回	接種をはじめる年齢が遅れたり、接種間隔があきすぎると、接種回数が減ってしまいます。早めの接種をおねがいします。
対象年齢	生後2ヶ月～5歳の誕生日の前日まで	

ロタ		
ロタリックス (1価ワクチン)	【回数】2回	【標準接種期間】 1回目：生後2ヶ月～出生14週6日後まで 2回目：1回目から4週間後 【公費接種期間】 出生6週0日後～出生24週0日後まで
ロタテック (5価ワクチン)	【回数】3回	【標準接種期間】 1回目：生後2ヶ月～出生14週6日後まで 2回目：1回目から4週間後 3回目：2回目から4週間後 【公費接種期間】 出生6週0日後～出生32週0日後まで

※原則、同じ種類のワクチン接種を受けること。

※1回目の接種が出生15週0日後以降になる場合、国は接種をお勧めしていません。

（腸重積症のリスクが高くなるため）

・接種後、ワクチンを吐き出しても、再接種を受ける必要はありません。

※接種後2週間程度は便にウイルスが排出されるので、おむつ交換後などよく手を洗いましょう。

■接種を受けることができない者

- ①重症複合型免疫不全症(SCID)を有する乳児
- ②未治癒の先天性消化管障害(メッケル憩室等)がある乳児
- ③腸重積症の既往のある乳児

※その他の「予防接種を受けることができない者」「接種前に医師と相談が必要な者」は、別紙「予防接種について」に記載。

■腸重積症について

腸重積症とは、腸管に腸管が入り込み、腸が閉そく状態になることです。ワクチン接種後1週間程度、腸重積の発症がわずかに上昇する可能性があります。0歳児の場合は予防接種を行わなくても発症することがある病気のため、接種していない場合でも注意が必要となります。もともと3～4か月から月齢が上がるにつれ多くなる病気のため、早めにロタウイルスワクチンを接種しましょう。腸重積症は手術が必要にあることもありますが、発症後すぐに治療を行えばほとんどの場合、手術をせずに治療が可能です。



おしえて!! チックン!



ロ タ



ロタウイルス胃腸炎ってどんな病気?

- ・ロタウイルス胃腸炎は、口から侵入したロタウイルスが腸管に感染して発症する病気。
- ・感染力が強く、手洗いや消毒等を行っても感染予防することが困難なため、乳幼児期にほとんどの子供が感染する。
- ・下痢や嘔吐が激しいと脱水症状を起こす場合もあり、初めてロタウイルスに感染した際は特に重症化しやすく、まれに脳や腎臓に影響を及ぼすことがあり、注意が必要となる。



ロタウイルスワクチンについて教えて!

- ・ロタウイルスワクチンは、口からワクチンを飲む経口生ワクチン。2種類あり、予防効果や安全性に差はない。接種回数や接種対象期間が異なる。
- ・ロタウイルス感染による胃腸炎を約80%予防し、重症ロタウイルス感染症の約95%を予防する効果がある。
- ・ロタウイルス感染症は乳児期での初感染が最も重症で、その後感染を繰り返すにつれて軽症化していくので、この最初の感染を防ぐことを最大の目的として、乳児早期にワクチン接種を行う。

■ 副反応について

- ・ロタワクチン接種を受けた後に見られる主な副反応としては、下痢や嘔吐、咳、食欲不振、発熱といった症状がある。
- ・ロタワクチン接種を受けた後、「泣いたり、不機嫌になったりを繰り返す」、「ぐったりして顔色が悪くなる」、「嘔吐を繰り返す」、「血便が出る」などの症状がある。万が一、このような症状がある場合は、速やかに医療機関を受診すること。

小児用肺炎球菌



小児肺炎球菌ってなに?

- ・小児肺炎球菌は、中耳炎、副鼻腔炎などの他、髄膜炎、肺炎などの重篤な全身感染症を起こす細菌。
- ・細菌性髄膜炎は、発熱・おう吐など風邪と区別がつきにくく、症状が進むと、ぐったりする、けいれん、意識がないなどが出てくる。
- ・子どもの細菌性髄膜炎の原因菌として最も多いのが、肺炎球菌。小児肺炎球菌による髄膜炎では2%の子が亡くなり、10%の子に難聴、精神発達遅滞、四肢麻痺、てんかんなどの後遺症がみられる。



小児肺炎球菌ワクチンについて教えて!

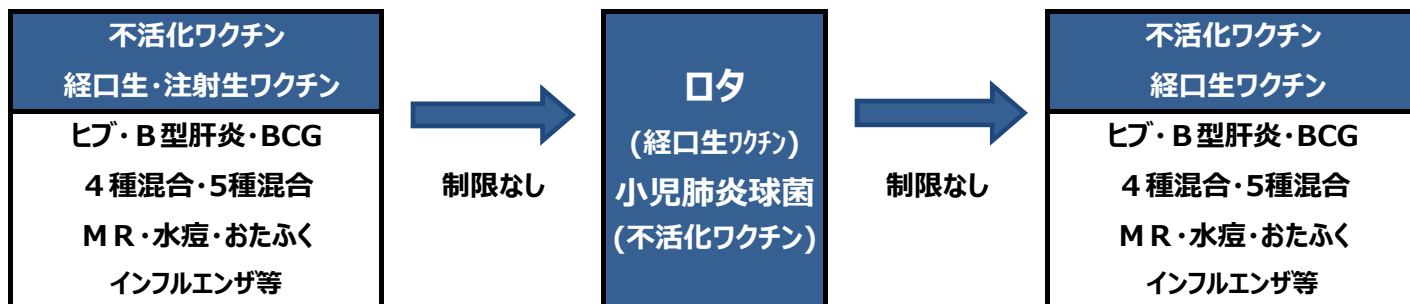


- ・小児肺炎球菌が血液や髄液から検出されるような重篤な感染症にかかるリスクを95%以上減らすことができると報告されている。
- ・子どもに重い病気を起こしやすい13種類または15種類の肺炎球菌に対する予防効果がある。

■ 副反応について

- ・小児肺炎球菌ワクチンでは、刺激に反応しやすくなったり、眠そうにすることがある。
- ・きわめて稀に、アナフィラキシー、けいれん、血小板減少紫斑病などの重い病気にかかることがあるといわれている。

■ 他の予防接種との間隔(同時接種希望の場合は医師と相談してください。)



お問い合わせ先

糸満市役所 健康推進課 予防係

電話：098-840-8126